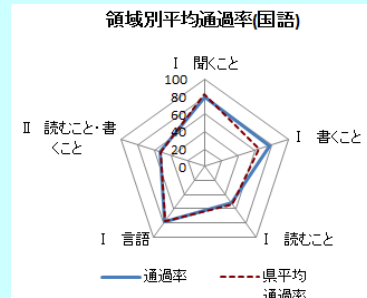
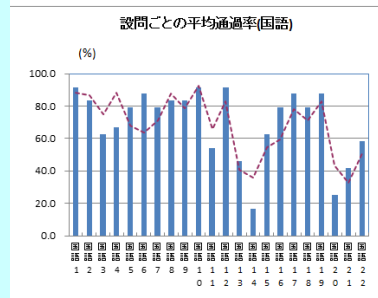


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 70.6%, 県 68.0 %)

領域別平均通過率



2021年度調査結果



全国学力・学習状況調査 本年度通過率

A問題
 本校 73%
 広島県 77%
 全国 74.8%

B問題
 本校 54%
 広島県 61%
 全国 57.5%

本年度の結果について

◎「基礎・基本」定着状況調査
 ◇全国学力学習状況調査

○取組の成果と課題
 昨年度の各種学力調査から明らかになった課題は
 ①漢字を書くこと ②ローマ字を読むこと ③中心となる語や文を捉えて読むこと ④必要な情報を取り出し、条件に合わせて書くことであった。そこで、漢字やローマ字についてのミニテストを行い、定着を図るとともに、スモールステップでつまづきを把握し、指導していった。その結果本年度は、「基礎・基本」定着状況調査において、漢字を書くことは通過率が昨年度比+11.5、ローマ字を書くことは+11.1となった。しかし、「読むこと」や「情報を取り出して条件に合わせて」書くことが課題として残った。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題
 ◎「叙述を基にした想像 16.7%」「情報の取り出し 25.0%」「情報の取り出し・情報に関連づけた記述 41.7%」など、物語文を読み取りや、情報を取り出し、それに関連づけて書く力に課題がある。
 ◇物語文を読む問題において「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える 26.9%」「具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめる 42.3%」「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く 30.8%」など、物語の読み取りや、必要な情報を取り出し目的に合わせて書く力に課題がある。

重点課題

◎基礎基本定着状況調査
 ◇全国学力学習状況調査

- ◎物語文の話の展開に即した、主人公の心情の変化を読み取ることができていないため、主人公がどのような気持ちになっているかについて、自分の考えをもつことができない。
- ◎複数の資料から必要な情報を取り出し、情報を整理し、関連づけて文章を書くことができない。
- ◇物語文の叙述に即した読み取りの話し合いが不十分で、具体的な叙述を基に自分の考えをもつことができない。
- ◇必要な情報を取り出し、情報に関連づけ、条件に合わせて書くことができない。

標準学力調査に向けた重点取組

- 【全体研修】
 - ・全教職員で「基礎・基本」定着状況調査、全国学力学習状況調査・標準学力調査の問題を解き、分析し、課題の共通理解を図る。
- 【授業改善】
 - ・「読むこと」の学習において、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えを話したり書いたりする活動を重点的に行う。
 - ・「書くこと」の学習において、教科書のモデル文の意図や文章構成について指導し、集めた情報に関連づけて、条件に合わせて書く練習をする。
 - ・ドリルタイムなどを活用し、物語文の読み取り問題を行う。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)		<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員で、通過率の低かった問題の誤答分析を行う。 ・授業改善の視点についての共通理解を図る。 	重点課題から選定した問題・物語文の読み取りの問題に繰り返し取り組む			標準学力調査において重点課題となった問題に繰り返し取り組む		
児童への取組			<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の読み取りにおいて、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えを話したり書いたりする活動を重点的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことの学習において、教科書のモデル文の意図や文章構成について指導し、集めた情報に関連づけて、条件に合わせて書く練習をする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【見取】 昨年度の標準学力調査を全学年で実施 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【検証】 標準学力調査の正答率 全国平均以上 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことの学習において、教科書のモデル文の意図や文章構成について指導し、集めた情報に関連づけて、条件に合わせて書く練習をする。 	

指導方法等の改善計画について [算数科]

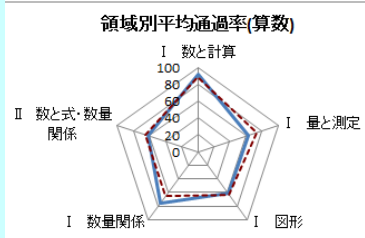
三原市立久井 小学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 73.9%, 県 74.3%)

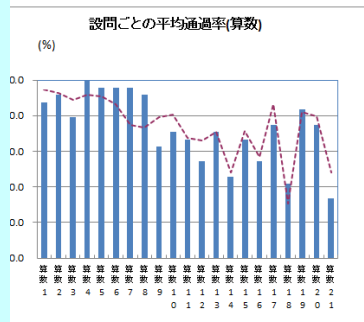
全国学力・学習状況調査
本年度通過率

◎「基礎・基本」定着状況調査
◇全国学力学習状況調査

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



A問題
 本校 75%
 広島県 81%
 全国 78.6%
 B問題
 本校 44%
 広島県 47%
 全国 45.9%

○取組の成果と課題

昨年度の各種学力調査から明らかになった課題は、①日常生活の事象における数学的な表現の活用と解釈 ②図形の構成と論理的な考察 ③割合であった。そこで、次の2点を工夫して取り組んだ。
 ① 生活場面等から児童自ら課題を見付け設定し、他の児童との協働学習により、より深い学びとなる授業を行った。
 ② 割合を二つの量の関係として捉えさせ、割合の大小について検討つける場面も設定した。
 しかし、割合については、日常生活の事象と結びつけて考えさせることに課題が残った。
 ◎「事象の解釈と根拠の説明 (33.3%)」「二つの折れ線グラフの関連付け (41.7%)」「平行四辺形の判断 (45.8%)」など、数と計算、数量関係、図形の問題の通過率が低い。
 ◇「割合 (11.5%)」「仮の平均の考えを活用し測定の平均を求める (23.1%)」など、量と測定、数量関係の問題の通過率が低い。

重点課題

◎基礎基本定着状況調査
◇全国学力学習状況調査

- ◎二つの折れ線グラフを関連付けて読み、条件に合うように記述することができない。問題文から分かることを全て挙げ、その中から必要な条件を選び出す場の設定を継続的に行う必要がある。
- ◎伴って変わる数量の事象を解釈し、根拠を式と言葉を使って説明することができない。
- ◇仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を言葉や式を使って記述することができない。
- ◇与えられた情報から、身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その理由を記述することができない。

標準学力調査に向けた重点取組

【全体研修】

- ・全教職員で「基礎・基本」定着状況調査、標準学力調査の問題を解き、分析し、課題の共通理解を図る。

【授業改善】

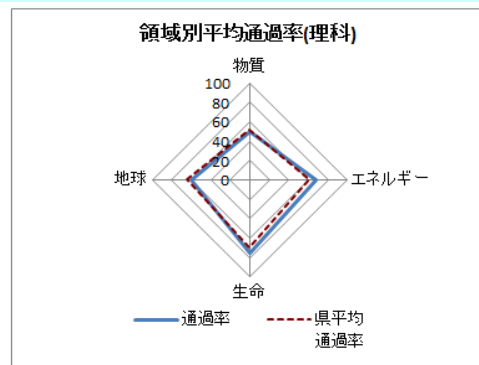
- ・式や数値の意味を説明する機会を増やすとともに、授業作りの中で、規則的に変化する数値への関心を高める工夫を取り入れていく。
- ・割合の学習では、基準量・比較量・割合の関係を表や図に表しながら、繰り返しおさえる。また、何が問われるのかを明らかにするために問題文に線を引いたり、量感（増えるのか、減るのか）を言葉に表したりする活動に取り組む。
- ・算数用語や式・言葉を使って、根拠を自分の言葉で記述させ、説明させる。

取組計画表

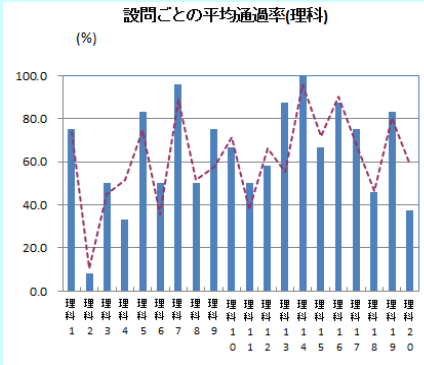
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
校内研修等 (職員)		<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で問題を解き、通過率の低かった問題の誤答分析を行う。 ・改善計画をもとに、2学期から全職員で取り組む内容を共有する ・ドリルタイムについて確認する。 	重点課題から選定した問題に取り組む。					<ul style="list-style-type: none"> ・標準学力調査について自校採点を行い、課題について分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間のまとめ成果と課題 ・次年度の授業改善に向けて
児童への取組		<ul style="list-style-type: none"> ・ドリルタイムで学び直しをさせる。 ・単元末に学力補充を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリルタイム ・単元末学力補充 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリルタイムの進捗状況を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季休業中の課題について確認を行う。 	<p>【見取り】</p> 昨年度の標準学力調査を全学年で実施	<p>【検証】</p> 標準学力調査の正答率 全国平均以上	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全体で、定着していない問題に取り組む。ドリルタイムにて補充 	

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 65.2%, 県 61.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度の各種学力調査から、①「太陽の動きと影の関係 (22.2%)」②「物の重さの測り方 (25.9%)」など、科学的な思考・表現や自然現象についての知識・理解を問う問題の通過率が低く、物事を推測することや、実験の条件をそろえること(重さの比較)の理解が定着していないことが明らかになった。そこで、次の3点を工夫して取組をおこなった。

- 1 物事を推測する力を付けるために、授業の中で、予想させる際、その根拠を考えさせた。自分の生活体験をもとに考えさせたり、グループで予想の根拠を交流させたりした。
- 2 実験の条件をそろえることへの理解を定着させるために、実験の結果を記録するための表の項目を考えさせ、そろえた条件は何か、変えた条件は何かを視覚的に分かりやすくなるようにした。
- 3 プリント等を使ってドリル学習を行い、文問題を読むことに慣れさせるとともに、既習事項の定着をはかった。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

①「適切な検証方法の選択 (8.3%)」②「仮説に基づいた実験結果の予想 (33.3%)」など、実験に関する科学的な思考・表現を問う問題の通過率が低い。また、③「結論について正しく説明している文章を選ぶこと (37.5%)」など、自然現象についての知識・理解に課題があることが明らかになった。

重点課題

◎科学的な思考や表現に課題がある。適切な検証方法を選んだり、予想を立てる際に適用できる知識を根拠としてあげることが十分でない。

- ・空気でっぽうの前玉が飛び理由を検証する実験用具を選択する問題の通過率が極めて低かった。とじこめられ押し縮められた空気が元に戻ろうとする様子をイメージすることができていなかった。
- ・金属をあたためた時の熱の伝わり方を問う問題では、「予想が正しかった場合の結果」という部分が読み取れておらず、通過率が低かった。問題の意図を正しくつかむことに課題がある。本来の正答を選んだ児童は約65%であり、金属をあたためた時の熱の伝わり方の理解はできていたと思われる。

標準学力調査に向けた重点取組

【全体研修】

○全教職員で「基礎・基本」定着状況調査・標準学力調査の問題を解き、分析し、課題を共通理解する。

【授業改善】

○理科用語を使った説明を授業でさせていく。教師も理科用語を使っていく。

(根拠をもとにした予想や実験方法を説明させる。説明させたい内容を教師側が考えておく。説明で足りない部分は補わせる。)

【取組】

○授業のはじめにミニテストを行い、既習事項の定着を図る。

○自然事象についての理解や理科用語の習得に取り組むとともに、応用的な問題にも取り組ませていく。

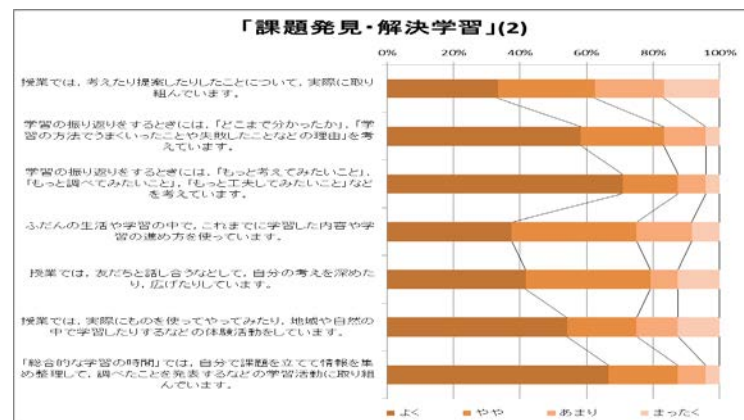
○重点課題から選定した問題に、ドリル学習で取り組んでいく。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)		<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で問題を解き、通過率の低かった問題の誤答分析を行う。 ・改善計画を使い、2学期から全職員で取り組む内容を共有する。 ・課題に応じた問題を選定する。 ・教師は、理科用語を使っていく。 	重点課題から選定した問題に繰り返し取り組む。		標準学力調査の結果から選定した問題に取り組む。			
児童への取組		<ul style="list-style-type: none"> ・理科用語を使った説明を授業でさせていく。 			【見取り】 昨年度の標準学力調査を全学年で実施	【検証】 標準学力調査 全国平均以上	<ul style="list-style-type: none"> ・課題のある児童への取組 ・学級全体で定着していない問題等への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・標準学力調査において通過率の低かった問題を各学年で実施・検証

別紙3 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

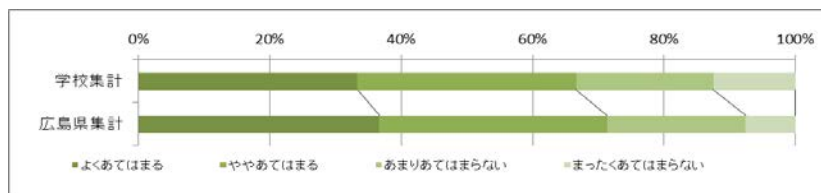
(1) 生活・学習



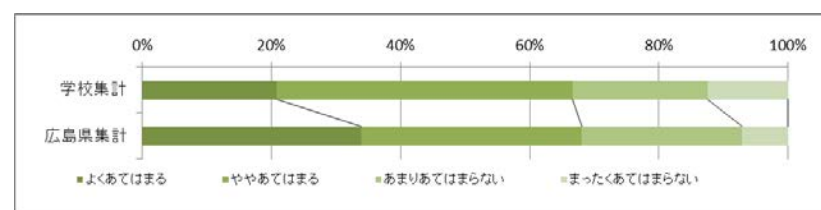
児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
(21) 授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。 62.5%	授業においては、問題を解くときに、既習事項の活用を意識させる。 また、学んだことを日常生活と関連付け意識させる。	5 学年	80%	児童アンケート調査	1月		

(2) 教科

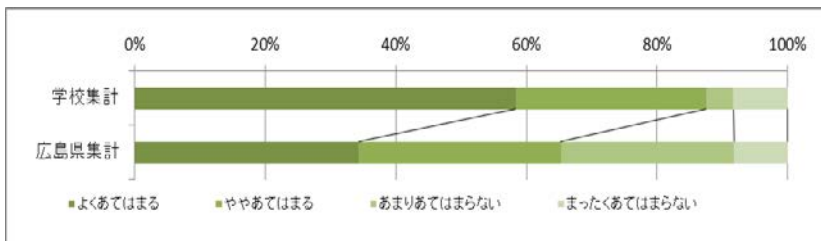
国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



算数の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えや周りの人に説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	(6) 国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。 66.7%	学習と日常生活場面をつなげることができるよう、単元構成や授業展開を工夫する。	5 学年	75%	児童アンケート調査	1月		
算数	(9) 算数の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。 66.7%	授業の中で、理由をあげて説明する時間をとる。 友達の説明をノートに書き写し、説明の仕方を学ばせる。	5 学年	75%	児童アンケート調査	1月		
理科	(6) 理科の授業では、自分の考えを周りの人に説明したり発表したりしています。 87.5% （「よくあてはまる」は58.3%）	課題に対する見通しをもつ場面や、観察・実験結果から考察を行う場面において、根拠をもとに自分の考えを述べる時間をとる。	5 学年	90% （「よくあてはまる」を70%）	児童アンケート調査	1月		